

商店のIT化支援へ

ちば経済

ちばの企業

ベイキューブシー(千葉市中央区)

ソフトウェア開発のベイキューブシー(千葉市中央区、水上明美社長)は、社会のデジタル化が加速する中、人材不足などの課題を抱える小規模企業のIT(情報技術)導入支援に活路を見いだす。本業を生かしながら、レジャーやグルメなどの地域情報発信サイトも運営。来年の東京五輪・パラリンピックでは県内開催競技を盛り上げるため、社員のパラ競技観戦を促すアイデアを練っている。

約50人の社員を抱え、ウェブシステム開発やサイト制作・保守、ITコンサル

タントなどで2019年3月期の売上高は約5億6千万円。3期連続の増収増益を確保した。

技術者派遣などを主力業務としてきたが、今後は町の魚屋さんや八百屋さんといった商店規模のIT化支援にシフトしたい」と話す水



「社員が働きやすく、イメージの良い会社になりたい」と語る水上社長＝千葉市中央区の本社

社員厚遇、パラ観戦奨励も

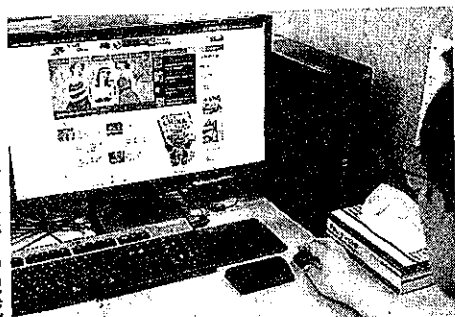
上社長。IT化が遅れ、ホームページ更新が滞っている小規模企業も多い中で、サイト制作からIT導入による業務上の課題解決までビジネスチャンス拡大を狙う。

中小企業のサポートを目的に、千葉商工会議所が結成した「IT導入促進チーム」にも、NTT東日本千葉事業部(同市美浜区)や千葉測器(同市中央区)とともに名を連ねる。

大原町)出身の水上社長は地元への思いも強く「過疎地域の子どもたちが地域の魅力を発信して活性化に貢献するプラットフォームにしたい」と夢を語る。

資格手当や特別休暇など社員の待遇改善にも積極的。約40種類の資格を対象とし、手当の額は取得の難易度などで異なるが、最も高い「ITコーディネーター」では月10万円を設定する。このほか入社直後から利用できる有給休暇や、結婚記念日、誕生日といったライフイベントに合わせた特別休暇を導入。取り組みが奏功してか、女性社員の既婚比率が高いという。

来年に迫った東京五輪・パラリンピックでは、県内で開催されるパラ競技の観戦を奨励。会場で観戦した社員は、業務扱いにすることを検討する。地元企業として大会を盛り上げるだけでなく「生のスポーツから感動を得て、ビジネスに生かしてほしい」と水上社長も考えている。



レジャーやグルメなどの地域情報発信サイト「スマート千葉」も運営